

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	東京農工大学	整理番号	H01
プログラム名称	グリーン・クリーン食料生産を支える実践科学リーディング大学院の創設		
プログラム責任者	國見 裕久	プログラム コーディネーター	千葉 一裕

◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

〔総括評価〕

一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組であり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。

〔コメント〕

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、学長ビジョンの具体的施策の一環として、食料生産とエネルギーという大項目について全学的に取り上げられており、石油に依存しない食料生産（グリーン・クリーン）の実現を目指して、俯瞰力と実践力を有した先進的グローバル人材を育成しようと意欲的な取組がなされている。採択当初より学内規程の整備等に早々と取り組み、既に平成27年度から本プログラムを主題とする新専攻である「食料エネルギーシステム科学専攻」を立ち上げるなど、本事業への取組に対する意欲は評価できる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、イノベーション教育セミナーをはじめとして、海外及び産業界の視点を組み込んだ、多面的かつ人材育成の土壌形成にもなる取組などが実施されており、実りある結果が期待される。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、新専攻に所属するそれぞれの学生に対して当該専攻専任教員のうち1名が教育指導教員となり、さらに本プログラムに参加する他専攻の教員も主たる研究指導教員として教育を行うことにより、横断型カリキュラムと専門コアカリキュラムのバランスに配慮していることについては、一定の評価が与えられる。

優秀な学生の獲得については、結果として自大学出身者が多数を占めている状況であり、優秀な他大学出身者及び留学生をいかにしてプログラムに参画させるかについて、一層検討する必要がある。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、学外の国際機関や他大学との連携を基礎に、5名以上の教員・外部評価委員で学位審査体制システムを構築していることは評価できる。

しかしながら、事業の定着・発展については、本プログラムを恒常的に実施するため設置された新専攻が、比較的少人数の教員で構成され、かつ採択当初から本プログラムに参画していた教員がその内の一部に限られていることや、他専攻の教員の積極的な参加意欲をいかにして維持するのかなどの懸念事項が存在する。このことにより、「全学的な融合領域としての大学院新専攻を設置し、全学の大学院研究科に当該リーダー養成プログラムを波及させる」という当初計画の実現が危ぶまれることから、今後一層の努力が求められる。